

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 30 日現在

機関番号：82620

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25871182

研究課題名(和文)古代メソポタミアの葬送儀礼に関する多角的研究

研究課題名(英文)Multilateral research on funerary rituals in ancient Mesopotamia

研究代表者

久米 正吾 (KUME, Shogo)

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・文化遺産国際協力センター・アソシエイトフェロー

研究者番号：30550777

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：シリア、ユーフラテス河中流域、テル・ガーネム・アル＝アリ遺跡近郊のワディ・ダバ墓地遺跡の発掘調査から得られた前期青銅器時代(紀元前3千年紀)の墓制に関する考古学的証拠の分析、葬送儀礼に関する楔形文字記録の収集、同遺跡出土試料の脂質分析を行い、古代メソポタミアの葬送儀礼について調べた。その結果、追葬に伴う同一墓の定期的な利用、墓を連結する水路網の構築など楔形文字資料が記録する各種の葬送儀礼を示唆する幅広い考古学的証拠を示した。さらに、薬用植物を用いた死者供養の可能性など当時の葬送儀礼に関する新たな側面を考古学の成果から提案する証拠を得た。

研究成果の概要(英文)：This study investigated funerary practices of ancient Mesopotamia through archaeological records of graves at Wadi Daba burial area near Tell Ghanem al- 'Ali on the Syrian Middle Euphrates in the Early Bronze Age (3rd millennium BC), contemporary cuneiform sources and lipid analysis of soil samples from the inside of pottery buried in the graves. As a result, a wide range of archaeological records including periodic use of a single grave associated with the event of additional inhumations and channel networks among the graves was confirmed, suggesting unique funerary practices attested by the analysis of ritual texts in cuneiform sources. In addition, the results of lipid analysis proposed a new dimension of funerary practices in ancient Mesopotamia, including possible use of medicinal plants for the care of the dead.

研究分野：考古学

キーワード：シリア、ユーフラテス河流域 青銅器時代 紀元前3千年紀 葬送儀礼 墓制 社会階層 楔形文字 脂質分析

1. 研究開始当初の背景

古代メソポタミア社会の研究意義は、都市、交易、王権、文字、宗教など現代文明に普遍的な基層・基盤を形成した社会機構や社会制度について、その人類史的起源を明らかにできることにある。加えて 20 世紀初頭以降、日本を含む世界各国の調査隊による科学的発掘調査によって蓄積された豊富な考古資料や楔形文字資料に恵まれている。これは、考古学及び文献史学の双方から多角的に古代メソポタミア社会に関する諸問題に取り組むことを可能にしている。

考古資料及び文献史料の双方を利用して調査研究を行うメリットを最も享受できる研究課題のひとつに過去の儀礼に関する研究がある。考古学における儀礼研究は、ともすれば民族誌の援用や解釈学に陥りがちである。一方、楔形文字資料が記録する儀礼に関する情報を最大限に活用することによって、考古資料のみでは必ずしも判然としない過去の儀礼についてアプローチすることがはじめて可能となる。

古代メソポタミアの葬送儀礼に関する考古学研究は、これまで未盗掘や残存状況の良い王墓級の厚葬墓の発見とともに発展してきた。代表的な例として、20 世紀初頭、南イラクのウル遺跡（紀元前 2500 年頃）で発見された王墓がある。多数の殉葬者をも伴うこの王墓発見の成果は、今なお最新手法を用いた出土資料の再分析などが行われ、古代メソポタミアの葬送儀礼を明らかにする上で重要な役割を果たしている。また、2002 年に発見されたシリア、カトナ遺跡の未盗掘王墓（紀元前 1500 年頃）も古代の王族の葬制を解明する上で貴重な情報を提供しており、埋葬に伴う葬送儀礼の究明に向け、化学分析を含む様々な調査研究が目下進められている。

一方、文字記録システムが完全に整備された紀元前 2 千年紀以降の楔形文字資料には、神話、神々への祭事、葬送儀礼に関わるものなど様々な儀礼テキストが含まれる。これらのテキストは、当時の儀礼行為を具体的に明らかにするとともに、古代メソポタミアの人々の死生観や冥界観など当時の宗教観をも示唆している。

このように、考古学と文献史学はこれまでも協業して古代メソポタミアにおける葬制や宗教観の解明を試み、重要な成果を提出してきた。他方、研究の対象としてきた厚葬墓や儀礼テキストという資料の性格上、支配者層が関与した儀礼行為についてはおよそ具体的に明らかにしてきたものの、被支配者層や文字記録を残さなかった周縁的な集団の儀礼の実態については、ほとんど何も説明してこなかった。

2010 年度から 2011 年度にかけて申請者らが発掘したシリア、ユーフラテス河中流域、テル・ガーネム・アル＝アリ遺跡近郊のワデ

ィ・ダバ墓地遺跡（前期青銅器時代。紀元前 2500 年頃）は、開発や盗掘による古代墓の破壊が深刻な当該地域において、未盗掘墓を含む極めて良好な遺存状態で発見された稀有な例である。発見された墓はいずれも厚葬とは言いがたい非エリート層の埋葬であった。しかし、多量の副葬土器を含む成人追葬墓や成人同様に装飾品や土器を副葬し埋葬された幼児・子供の墓を観察するにつれ、王墓級の厚葬墓や楔形文字資料がこれまで明らかとしてきた支配階層の儀礼行為は、普遍的宗教実践として当時あらゆる階層に浸透していたのではないかと考えるようになった。

2. 研究の目的

本研究課題の目的は、王墓や楔形文字資料が示す古代メソポタミアにおける葬送儀礼行為さらには死生観、冥界観、宗教観が、異なる社会階層間において普遍的に共有されていたのではないかとという仮説を、申請者らが発掘調査を実施した保存状態の良い非エリート墓を分析対象として検証することにあった。

具体的には、発掘で得られた考古記録を再度詳細に検討し、楔形文字資料から得られた証拠との比較対照をはかった。加えて、出土資料の理化学分析と連携することによって、当時の非エリート層の葬送儀礼解明に向けた実証的証拠を提出することとした。

3. 研究の方法

(1) 考古学研究

2010 年度から 2011 年度にかけて実施したシリア、ワディ・ダバ墓地遺跡の発掘調査記録の再検討を行った。特に葬送儀礼を考古学的に特徴付けると予想された追葬および水路遺構の考古記録に着目し、出土記録の解析と類例の収集を行った。

(2) 文献史学研究

楔形文字資料に基づく葬送儀礼関連情報、特に考古記録と密接に関連する葬送に伴う共飲共食儀礼および献水儀礼に関する情報収集を行った。

(3) 理化学分析

同墓地遺跡から出土した副葬土器の内容物を明らかとするために、土器内から採取した土壌標本の脂質分析を行った。また、より信頼性の高い脂質分析結果を得るために、公益財団法人古代オリエント博物館が 1970 年代に発掘調査を実施したシリア、ユーフラテス河中流域、テル・ルメイラ遺跡近郊の同時代墓から出土した副葬土器胎土に吸着した脂質の分析を行った。

4. 研究成果

上の 3 つの研究手法によって得られた結果を統合し、主として以下の成果を得た。

(1) ワディ・ダバ墓地の墓室内に廃棄状況で副葬された 60 点を超える多量の土器の堆

積状況を詳細に再検討した結果、少なくとも2回から3回に分かれて堆積したことが判明した。これは、追葬に伴い同一墓が複数回利用され多量の土器を消費的に利用したことを考古学的には示す。さらには、楔形文字資料が記録する共飲共食を伴う定期的な墓前死者供養が、少なくとも追葬時のタイミングにおいて実行されたことを示唆する可能性もある。

(2) ワディ・ダバ墓地で確認された墓を連結する水路網の構築は、ウルの王墓で確認された墓に伴う水路遺構との類似性が指摘でき、楔形文字資料が記録する献水儀礼との関連性をも想起させる。なお、両墓地に共通する水路遺構の存在は、葬送儀礼行為の社会階層間の普遍性を示唆する上でも重要である。

(3) テル・ルメイラ遺跡近郊の墓から出土した副葬土器の胎土に吸着した脂質の分析では有意な結果を得ることができなかったことから、土器内包土壌の脂質分析よりも信頼性の高い分析結果を提示するという目的の達成には至らなかった。現在、破壊分析する試料量を増やすことによって、同遺跡出土試料の脂質分析を再度試みている。

一方、ワディ・ダバ墓地出土の副葬注口土器内から採取した土壌標本の脂質分析を行った結果、一般的な土壌成分には含有されない薬用植物由来成分を検出した。疾病への対処のため、当時様々な薬用植物が利用されていたことは楔形文字資料の解釈、分析からこれまでも知られていた。しかし、本研究の成果は薬用植物が葬送儀礼のコンテキストの中で利用されていた可能性を初めて提案するものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

S. Kume and A. Sultan (2014) Burials, nomads, and cities: A perspective to changing nomad-sedentary relations on the Syrian Middle Euphrates during the third and second millennium BC. In: D. Morandi Bonacossi ed. Settlement Dynamics and Human-Landscape Interaction in the Dry Steppes of Syria. Studia Chaburensia 4, pp. 137-150, Harrassowitz Verlag, Wiesbaden (査読有)

久米正吾 (2014) 「2013年の歴史学界 - 回顧と展望 - 西アジア・北アフリカ (古代オリエント2)」 『史学雑誌』123(5), pp.286-290 (査読無)

久米正吾 (2014) 「日本西アジア考古学会2012年度ワークショップA「西アジア青銅器時代の葬制」報告」 『西アジア考古学』15, pp.83-85 (査読無)

〔学会発表〕(計3件)

久米正吾・宮田佳樹・堀内晶子 (2015) 「古代メソポタミアの死者供養 - 副葬土器内包土壌の脂質分析からの新視点 - 」 『日本西アジア考古学会第20回総会・大会 (ポスター発表)』 名古屋大学、2015年6月13日～14日

久米正吾 (2013) 「ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学」に向けて - シリア、ユーフラテス河中流域とキルギス、天山山脈域での考古学調査 - 」 『早稲田大学考古学会2013年度公開講演会・研究発表会』 早稲田大学、2013年12月14日

久米正吾・宮田佳樹・赤司千恵・門脇誠二 (2013) 「前期青銅器時代ユーフラテス河中流域の葬送儀礼」 『日本西アジア考古学会第18回総会・大会』 東京大学、2013年6月1日～2日

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

久米 正吾 (KUME SHOGO)

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・文化遺産国際協力センター・アソシエイトフェロー

研究者番号：30550777

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：